

(様式第4号)

第6回上田中央地域協議会 会議概要

1 審議会名	上田中央地域協議会
2 日時	令和2年12月21日 午後3時00分から4時30分まで
3 会場	中央公民館 3階大会議室
4 出席者	天田委員、伊藤委員、岩田委員、金井委員、上嶋委員、小林みゆき委員、小林芳夫委員、田中委員、谷藤委員、成澤委員、半田委員、平澤委員、町田委員、丸山委員、満木委員、望月委員、山浦委員、山寺委員
5 市側出席者	【事務局】内藤地域内分権推進担当係長、大滝地域内分権推進担当主査、片山地域内分権推進担当主査
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和2年12月22日

協 議 事 項 等

次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 協議

(1)防災問題の分科会設置について

3つの分科会を提案

- ①外国籍市民・高齢者・自治会未加入者等の対応と自主防災組織の運営について
- ②情報の共有化、避難の連絡網と移動手段について
- ③コロナ禍における避難場所とその運営について

(会長)それぞれの分科会で協議を進め、内容が重複することも出てくると思うが、12月から来年9月まで計10回検討をし、10月から12月までの中で調整して、令和4年1月に提言書を提出する。第8期の任期中の3月までに市から回答を得るという流れを考えている。

必要に応じて市の担当課から話を聞く、現地を調査することもよいと考える。

各分科会への参加希望

(委員)②の移動手段については避難場所へということか。③とオーバーラップすると思うがいかがか。

(会長)区切ることはできないので、オーバーラップしてもよいと考える。

(委員)③のコロナ禍における避難場所と運営については恒常的ではない。このコロナ禍がいつまで続くかわからないし、医者の配置等も関係してくるので、防災の分科会として研究することなのか疑問である。

(会長)それも踏まえて③の分科会の中で話し合ってもらいたい。コロナ禍と平時は状況が違うが、現在はコロナ禍の状況であるので、今回「コロナ禍における避難場所」と記した。コロナ禍と平時の両方を考えてほしい。

(委員)コロナ禍による非常事態宣言が出た際に、行政はいじめ問題等について相談窓口を開設するなどのケアをしたか聞きたい。コロナ禍が収束した後「上田市内において、コロナウイルスが原因で自殺した方・営業を辞めた方がいた」などということは1件もないと期待している。

非常事態の前段階でケアをした後、初めて「マスクを下さい」「営業自粛を下さい」と言えると思う。どこまで細部に渡ってケアできたのかを話し合いたい。

(会長)それぞれの分科会で色々な話をしてもらえればよい。それを提言とするかどうかは、また別の問題である。まとめの中で調整すればよい。

【担当分科会】

第一分科会 「外国籍市民・高齢者・自治会未加入者等の対応と自主防災組織の運営について」
上嶋委員、小林芳夫委員、田中委員、増沢委員、丸山委員、望月委員、山寺委員

第二分科会 「情報の共有化、避難の連絡網と移動手段について」
伊藤委員、谷藤委員、成澤委員、半田委員、平澤委員、町田委員、満木委員

第三分科会 「コロナ禍における避難場所とその運営について」
天田委員、岩田委員、金井委員、小林みゆき委員、瀬下委員、山浦委員

(2) 今後の進め方について

- ①検討 12月～9月(10回)
- ②まとめ 10月～12月(3回)
- ③市長への提出 1月
- ④回答 3月

【各分科会協議】

正副分科会長選出及び意見交換

○第一分科会

分科会の会長、副会長を選出

(会長：山寺委員 副会長：上嶋委員)

以下、委員からの主な意見

- ・自主防災組織は自治会で運営されているが、自治会に加入していない人はどのような人がいるかの現状把握が必要でないか。
- ・災害時住民支え合いマップは機能しているのか。
- ・避難訓練を実施する必要があるが、自治会単位ではハードルが高い。
- ・外国籍市民に対しても避難所の場所を知らせる必要がある。
- ・外国籍市民の方から、「避難所に行ってよいか分からなかった」「行ったら悪いと思った」「行くのが怖かった」などの声が聞こえた。垣根が高いと感じる。
- ・自主防災組織について、行政が自治会に丸投げしているのが現状だ。
- ・具体的な研修や実地訓練などを開催して、行政側から支援してほしい。
- ・自治会側から行政へのアピールも必要ではないか。
- ・行政は、防災講座やメール配信を行ったら「自治会は対応できている」という前提の中で進めている。机上では全自治会ができているとなっているが、現場がどうなのか把握しようとしなさい。
- ・自主防災組織を自治会で運営するなら、運営できるようになるまで、行政に支援してほしい。

- ・自治会の使命として、踏み込んでやる意識がでてきているが、行政は「やってください」と言うだけなので、行政にも踏み込んできてほしい。
- ・「自助」「共助」「公助」は大きな問題であり、市民の財産や命を守ることが行政の使命ではないか。自治会は任意団体であるため、責任や義務はない。行政の使命とどこで折り合いをつけるかが問題なのではないか。
- ・自主防災組織の運営は自治会に携わっていないと分からない。

○第二分科会

分科会の会長、副会長を選出

(会長：成澤委員 副会長：平澤委員)

以下、委員からの主な意見

- ・災害時に高齢者を誰が支援するかを決めておいた方がよい。
- ・情報を迅速に伝達するため、連絡網をどのようにすればよいかを考える必要がある。
- ・災害時に情報が入ってこない。また、誰に情報を伝えればよいか明確になっていない。
- ・災害時、一番大事なことは「情報」の取得である。メールや電話による情報伝達ではなく、即時に情報伝達及び情報共有ができる「無線機」を各自治会に配置してはどうか。
- ・市から自治会、自治会から市への情報伝達ルートがどうなっているのかを明確にして欲しい。問い合わせは市のどこの課に連絡すればよいのか分からない。
- ・自治会は、市や地区自治会連合会に頼るのではなく、自治会が災害時にどう対応すべきかを独自で考えることが重要である。
- ・災害時に高齢者等を支える人は誰にするかを隣組の中で話し合い、組長が依頼するとよい。日頃の近隣のコミュニケーションが重要である。
- ・災害時は、市のどの課へ連絡すればよいか分からないため、災害に関する問い合わせを受け付ける窓口を設置して欲しい。
- ・災害時は、いつ避難すべきか分からないので不安になる。避難する状況になる前であっても、現在どんな状況であるかを情報提供して欲しい。

○第三分科会

分科会の会長、副会長を選出

(会長：山浦委員 副会長：小林委員)

以下、委員からの主な意見

- ・提言に当たっては、市がやるべきこと、市が改善できることについて提言できるように話し合いを進めていきたい。単に悩み事や困っていることから提言内容を整理しようとする、それが自分たちで努力する事項になってしまい、市への提言にならない。
- ・「避難場所」の定義について、委員それぞれ様々なイメージがあるので、認識を統一してから話を進めたい。
- ・避難先については、自己判断になってしまうため、自治会としては、避難状況を把握しづらい一面がある。
(一人暮らしの高齢者が、自治会外の子どもの家に身を寄せる等)
- ・自宅は高校のそばにあるので、高校へ避難できる形になればよいと思う。グラウンドには入れても、体育館が開いていないケースもある。
- ・自主防災組織が、自治会を母体としているのは、住民を把握しやすいからではないのか。

- ・自治会に加入していない人が多い。アパートについては、形態は様々で、管理人さん（大家さん）がまとめて支払って、各戸に広報を入れておくだけの人もいる。誰が住んでいるかわからない人もいる。
- ・栄村の震災のときは、避難所設営について部落（自治会）のまとまりを確保したらうまくいったと聞いている。
- ・アパートについては、大家さんが、自治会に入ることを入居に当たってお願いしているところもあると聞いている。
- ・防災訓練も、シミュレーションで避難所の受付訓練などを取り入れてやったほうがよいのではないか。

【各分科会担当事務局職員】

第一分科会 片山地域内分権推進担当主査

第二分科会 内藤地域内分権推進担当係長

第三分科会 大滝地域内分権推進担当主査

4 その他

(1) 令和3年4月以降の地域協議会の日程について

(会長)令和3年3月までは第4月曜日で、月曜日が祭日の場合は翌日としていた。4月以降も同様の日程でよいか。

(委員)異議なし

(事務局)5・7・9月が全館ワックスがけのため公民館が使用不可である。翌火曜日の開催としたいがいかか。

(委員)異議なし

4月以降も同様の日程で、第四月曜日に開催とするが、5.7.9月は火曜日の開催とする。

(2) その他

事務局より上田中央地域協議会だより発行について素案説明

(3) 当面の日程

ア 第7回 1月 25日(月) 13:30 神川地区公民館大ホール

イ 第8回 2月 22日(月) 13:30 中央公民館2階会議室

ウ 第9回 3月 22日(月) 13:30 神川地区公民館大ホール

5 閉会